

特集

白砂青松を 未来へ

毎年、海開きの前に、一足早く夏の訪れを告げる一日があります。それが、日川浜海水浴場の海岸清掃です。子どもから大人まで大勢の人たちが集結し、一斉に行なわれるごみ拾い。今回は、SDGsにもつながる、豊かな海を守るための活動をご紹介します。

美しい海岸はいつのまにか

鹿島灘に面して長い海岸線が続く神栖市。釣りやマリンスポーツ、洋上から昇る朝日、そして夏にオープンする日川浜や波崎の海水浴場など、神栖市の魅力を語る上で海は欠かせない存在です。

遠浅できれいな海岸を守るため、15年以上前から市民主体で大規模な海岸清掃が行なわれているのをご存じですか？ 時期は海開きを迎える前の6月末か7月初頭、参加人数は例年約2000人に上ります。

この活動がスタートしたのは2007年。「日川浜から波崎漁港までの白

砂青松を大切な財産として将来に引き継ぎたい」をテーマに、市民有志によって神栖市海岸清掃実行委員会が結成されたのが始まりです。これまでの活動がどのように行なわれ、なぜ続けていくことができたのか、実行委員長の金本吉明さんに話を聞きました。

人の力に勝るものはない！

まず、海岸清掃当日の流れをご紹介します。事前申し込みは不要で、朝9時に直接、日川浜海水浴場に集合。受付で、可燃ごみ用と不燃ごみ用の各ごみ袋、軍手、参加記念のオリジナルタオルが配布されます。開会式では、小学生の代表がマイクの前に立ち「これから海岸清掃を始めます！」と元気に開始号令。それを合図に参加者が海岸を歩きながらごみ拾いをしていき、10時半には終了します。

毎回、みるみるきれいになっていく海岸を見て、人の力の大きさを実感すると金本さんは言います。「海岸はちょっと風



スタッフ用帽子と参加記念オリジナルタオル

地域の力を結集
海岸清掃は、多くの皆さんのボランティア精神に支えられています。参加者は個人、家族連れ、地元の



金本実行委員長

が吹くだけで、1週間もするとものごみを集まってしまうんです。そのほとんどが漂着ごみで、外国から流れ着くものも少なくありません。それを大勢の参加者が一つひとつ拾いながら進んでいくと、1時間半で見違えるほど海岸がきれいになります。機械で砂浜のごみを集めようとしても全部は拾いきれませんから、人の力に勝るものはありませんね」

参加者が不燃ごみと可燃ごみを分別しながら拾っていきませんが、事前説明や案内掲示が不要なくらい、きちんと分別されているそうです。小さなお子さんが、親御さんから分別の仕方を教わりながら拾っている姿もよく見られるとのこと。もし分別に迷うごみがあれば、集積所のスタッフが質問に答えてくれます。



海水浴はもちろんサーフィンも盛んな日川浜海水浴場。多くのサーファーが海岸清掃に参加している



海岸を
きれいにしよう！

小学生による開始号令